

第2回佐賀市社会教育委員の会議 会議結果（概要）

- 1 開催日時 平成29年11月20日（月）10時00分～12時20分
- 2 開催場所 青少年センター 大会議室
- 3 出席した者の氏名

○社会教育委員 11名

永野篤子委員、木原久美子委員、平川哲男委員、佐藤泰弘委員、宮崎悟委員、松隈智子委員、小石美貴委員、上野景三委員、櫃本真美代委員、江越みどり委員、北原学委員
（谷口仁史委員、草場真智子委員は欠席）

○事務局 13名

江副副教育長兼社会教育部長、百崎社会教育部副部長兼社会教育課長

【社会教育課】

井口参事兼副課長兼子ども・若者支援係長、豊田副課長兼総務企画係長、江口主幹兼子どもへのまなごし運動推進室長、水田社会教育係長、北村子どもへのまなごし運動推進室主査、山本子どもへのまなごし運動推進室主査、萬年子ども・若者支援係主事、長山総務企画係主事

【協働推進課】

鶴協働推進課長、山口副課長兼公民館支援係長、蘭公民館支援係主査

4 傍聴者 0名

※議事の前に、各委員への委嘱状交付、委員及び事務局の自己紹介、並びに委員長・副委員長の選任を行った。

5 議事

- (1)平成29年度佐賀市社会教育関係事業の進捗について
- (2)公民館の役割等について
- (3)その他

【説明概要】

※各項目説明の前に、「佐賀市社会教育委員について」と佐賀市教育振興基本計画について説明。

- (1)平成29年度佐賀市社会教育関係事業の進捗について

※資料1～5にて説明

【主な意見及び回答】

星空学習館管理運営事業

○現在の管理運営はどのような形態でしているのか。

⇒平成27年度までは西与賀コミュニティセンターという名称で、貸し館部分と管理部分を直営で、イベント関係を佐賀天文協会に委託し運営をしていた。平成28年度から館の役割をコミュニティセンターから天体や科学を学ぶ学習施設へ変更し、その際に管理・運営、イベント等の業務を行う指定管理者の公募を行い、結果として佐賀天文協会が現在指定管理を行っている。

さが学推進事業、人材バンクの活用・整備

○明治維新150周年の取り組みとして、さが学の教材や人材バンク等を使った施設・名所マップの作成等を行うのはどうか。

⇒現在企画政策課の担当者が各公民館をまわり、地域に眠った偉人・偉業の掘り起こしのお話をしている。公民館のほうで150周年記念事業に関する書物や資料の展示をして、市民の方に公民館へ気軽に立ち寄ってもらうような仕掛けをしたいと考えている。また、公民館で展示したものをまとめて図書館で展示するという案も出ており、現在調整を行っている。

⇒併せて、佐野常民記念館では、大隈重信記念館や徴古館などと、県の維新博事務局が中心となって毎月定例に情報交換をやっている。この中で周遊を促すような展示の方法や、入場料金の設定などについて打ち合わせを行っているところである。

子どもへのまなざし運動

○2月に行われるまなざし推進大会について、10周年の記念大会ということだが、どのような内容をする予定か。

⇒会場については、例年はメートプラザ(収容 400 名程度)のところを、今年度は諸富ハートフル(収容 1000 名程度)で大々的に開催する。また中身については、例年はパネルディスカッションでまなざし運動実践者の声を聞いていたところを、今年度はまなざしを受けてきた若い世代に参加してもらい、どのようなまなざしを受けてきたのかということをお話してもらう予定。

子ども・若者支援事業

○社会教育の中で、保健室登校等の子どもたちの把握をしているのか。

⇒不登校の子どもの実態については、教育委員会(学校教育部)として把握をしている。

○不登校の子どもの医療機関との連携をどのようにしているのか。

⇒(医療機関受診について記載のある「資料3」について説明。)本人が問題を抱えるに至った背景には家庭に起因するものが多いため、関係機関とどのような方向でサポートに取り組んでいくか協議しているところである。

非行防止対策事業

○資料4「街頭巡回指導の状況について(上半期)」の子どもたちの「危険な行為」とはどのような行為になるのか。

⇒夏場の暑い時期の遊泳禁止区域での遊泳や、道路での遊び、釣り禁止区域での釣りなどが「危険な行為」にあたる。

子ども相談事業

○電話・メール相談の中で、虐待などの相談を受けた際に、少年サポートセンターと連携して行うような相談はあっているのか。

⇒上半期、家庭に関する問題、学校に関する問題が9件あったが、特に少年サポートセンターのほうに相談をするような案件はこの中にはなかった。家庭の問題についてもサポートセンターに相談をしている案件はなかったが、小学生の万引きに関する相談についてはサポートセンターに伝えている。

青少年センター管理運営事業

○利用者に高校生が増えた要因は何か。

⇒高校生は中間テストや期末テストなど、テスト期間に一番増加している。4、5名くらいのグループでセンターに来て主に勉強をするという状況が一番多いように思う。

○SNSの被害やトラブルが水面下で増加している。SNSの被害や扱い方について、ここで情報提供をする必要があるのではないか。

青少年向け講座開催事業

○今年度は小学生向けや親子向けの計画を立てられているようだが、来年度はどんな事業を検討されているのか。

⇒今年度は卓球教室や小学生向けの理科実験教室に加え、青少年センター1周年を記念した

青少年センターまつりを10月1日に開催した。施設利用者による音楽発表会やスチューデント・サポート・フェイスの心理検査体験、キャリア教育講座としてゲームクリエイターの方を招いた講演会、少年サポートセンターの鑑識体験、公務員と青少年が直接意見を交わすフリートークイベント、西九州大学調理専門学校生徒を招いての青少年向け料理教室を行った。今年は洋風料理教室だったため、来年度はアンケートで希望があったお菓子作り教室を実施したい。また理科実験教室についても、現在は主に小学生向けだが、中学生向けもどうかと話をしている。

○青少年センターを利用している中学生、高校生、大学生などと共に講座内容を検討する会議等を行ってはどうか。

⇒検討会議については、今年の青少年センターまつりでも、高校生や佐賀大学の大学生に協力をいただき、イベントを行った。来年度は企画の段階から佐賀大学等の学生に協力をお願いして、企画の段階から意見を出してもらい、それを反映したものにしていきたいと考えている。

放課後子ども教室推進事業

○障がい児の受け入れはどうなっているのか。

⇒基本的に放課後子ども教室では誰でも来ていいという形で運営をしており、特別障がい児を排除するというものではない。また平日の放課後に行う放課後児童クラブというものがあるが、そちらについても、学校の特別支援学級の児童も受け入れをされていると思う。

学校地域連携支援事業

○地域教育コーディネーターの任期は2年なのか。引き続き任用ということはないのか。

⇒任期は原則として2年となっている。これまで小・中学校合わせて、17校にコーディネーターの配置をしている。

○地域教育コーディネーターの任期が終わった後の学校と地域との連携継続のため、どのようにしているのか。

⇒地域教育コーディネーターには、2年の任期の間にJ Aや地元の方々の連絡先等を掲載した人材リストを作成してもらっている。それを学校に残すという形で引き継ぎを行っている。

(2) 公民館の役割等について

※資料6「公民館の役割等について」にて説明

【主な意見】

○公民館にまちづくり協議会の看板を掲げさせてほしい。まちづくり協議会が公民館の中で活動を行っている、ということだけでも分かるようにしたい。

○まちづくり協議会の部会長さんが一生懸命やってくれるが、2年間でやめてしまう。一生懸命だった分、その時に大変だったということが残ってしまって、続く人がいない。

○循誘校区では人材不足が進んでいる。公民館ではまちづくり協議会の事業のアドバイスがもらえるのは非常にありがたい。しかしこの先の人材作りを公民館の中で話ができればいいと思うが現状できておらず、将来どうなるのか心配をしている。

○公民館の話というとまちづくり協議会の話が出てくるが、公民館と学校との関係も非常に重要だと思っている。しかし学校と公民館の関係が見えてこないと感じる。佐賀市でもコミュ

ニティスクールを進めているが、これ以上広がっていくのかどうか、という心配がある。

- 嘉瀬校区は、非常に地域連携が進んでいるところで、まちづくり協議会も公民館も学校も一緒にという感じになっている。嘉瀬にも後継者の問題というのはあるが、学校・地域・公民館全部含めたいろんな活動の中で少しずつ人が育ってきているというように思う。11月24日の「スクールコミュニティの挑戦」の研究発表において、学校の取り組みや、そこに地域の方がどのように関わり、どんなふう地域を盛り立て、そこにもちょっとした地域ができている、というような形を見せられればと思っている。
- 公民館に来られる方たちは決まっており、「生き方」「老後の暮らし方」といった社会教育について、公民館に来る人は分かるが、来ない人には分からない。今公民館に来ている人は高齢者で10年後にはもう来られないと思うため、今公民館に来られていない人にどう伝えていくのかというのが公民館の課題だと感じている。
- 地域の行事等に借り出されることが多いため、PTAの役員が負担になると言われることがある。また、隣接校区の問題で、住んでいる地域と通っている学校が違うというところで非常に苦慮している。公民館については、PTA協議会でも公民館を使うことがあり、その際に地域のまちづくりに携わっている方と挨拶をすることがある。公民館でまちづくりの取り組みを行っているということが啓発できれば活性化に繋がるのではないかと思う。
- 日新校区では、人材としては若い世代も多いが、特定の人だけが活動しているというのが問題があるように思う。一人の人が何役も兼務をしている状態なので、新たな人材の発掘が必要になっている。学校との連携については、地域の育成会に必ず小・中学校の校長先生に入ってもらっているためうまく行っていると思う。また太陽クラブという地域（放課後）こども教室があるが、ここには学校との連携という形で毎回子どもたちも来ており、保護者同伴で障がい児も来ているため、そこもうまく行っているように思う。

(3)その他

連絡事項なし